

## 福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 5 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

### ◇早期水稲◇

早期水稲の田植えは平年並で、5月15日までに終了です。苗の活着や初期生育は良好です。浅水管理で初期生育を確保し、雑草対策を適期に行いましょう。

### ◇普通期水稲◇

現在6月上中旬植えの育苗作業が行われ、生育は順調です。出穂期移行の高温を想定し、「夢つくし」の田植えは6月上中旬、「ヒノヒカリ」6月下旬を中心に行われる見込みです。育苗管理ではいもち病やもみ枯最近病などの対策を徹底し、移植適期を厳守しましょう。

### ◇麦類◇

生育期間の気温が3月下旬を除き高く、成熟期は2～5日早いものの前年比1～3日程度遅い見込みです。収穫は11月下旬播きの大麦・裸麦で5月16日頃、小麦は5月27日頃から始まる見込みです。稈長は平年並～やや長く、穂数は平年並～やや少なく収量は平年並～やや少ない見込みです。5月上旬の降雨により一部倒伏が発生しています。排水溝の手入れと雑草対策を徹底し、適期収穫を行いましょう。

### ◇冬春ナス◇

着果負担による成り疲れで生育停滞気味でしたが、5月に入り草勢は回復し始めています。芽の吹き出しもよく、花数も増加し、出荷量も増加しています。一部うどんこ病が発生しています。つやなし果の発生を抑制するため、畝や溝にかん水し、ハウス内の湿度を保ちましょう。また、日中のハウス気温が30℃以上にならないように換気し、アブラムシ類、ハダニ類、うどんこ病等の病害虫対策を徹底しましょう。

### ◇カキ◇

各品種とも開花期を迎え、着蕾数は概ね平年並みに確保できています。展葉期以降は強風雨の日が多く、灰色かび病が一部発生しています。摘蕾・摘果等の着果管理を行い、不要な枝を除去しましょう。訪花昆虫への影響に留意し、病害虫対策を徹底しましょう。特に降雨が続く場合は灰色かび病に注意しましょう。

#### ◇トルコギキョウ◇

春出し作型（3～5月）の出荷は最盛期は4月上旬で5月の出荷量は平年に比べて減少する見込みです。2～3月の天候が安定していたことから生育開花が早く、3～4月も順調に出荷されました。秋（10～11月）出荷作型は7～8月定植に向けて、順次播種が行われています。6～7月出荷作型は梅雨前に灰色かび病対策を徹底し、7～8月定植はほ場準備を早めに行い土壌消毒等確実に実施しましょう。

#### ◇茶◇

3～4月の低温により生育は遅れて出荷量は少ない状態です。霜害は少なく品質は良好です。一番茶の摘採は平坦部でほぼ終了し、山間部では5月第2週から開始しています。ハダニ、チャトゲコナジラミおよびクワシロカイガラムシの対策を適期に実施しましょう。樹勢の低下した園や芽伸びの悪い園では一番茶収穫終了後に更新せん定を実施しましょう。

#### ◇肉用牛◇

4月の肉牛枝肉単価は、大型連休に向けた仕入れ増等で3ヶ月ぶりに上昇に転じましたが、前年同時期の水準までは回復できていません。過去5年比の107～122%の高値水準は維持しています。今年度は例年よりも最高気温が30℃近い日の発生が早く多いため、早めの畜舎暑熱対策を行いましょう。また、舎内消毒等農場の衛生管理を徹底しましょう。